

世田谷区における中小企業の景況

第48回調査実施概要

1. 調査時期 : 平成26年7月1日 ~ 7月11日
2. 対象期間 : 平成26年4月 ~ 平成26年6月期、及び平成26年7月 ~ 平成26年9月期見通し
3. 調査対象 : 支部会員中小企業 (約 2,809 社)
4. 調査方法 : 調査票郵送 ~ 郵送・FAXにて回収。世田谷信用金庫・昭和信用金庫に協力依頼。
5. 回収状況 : 合計 406 社 (回収率 = 13.7%)

①製造業・建設業・運輸業・その他の業種(②~④を除く)	資本金3億円以下、または従業員300人以下	③小売業	資本金5千万円以下、または従業員50人以下
②卸売業	資本金1億円以下、または従業員100人以下	④サービス業	資本金5千万円以下、または従業員100人以下

製造業	50 社	不動産業	41 社	小売業(飲食業含む)	76 社
建設業	81 社	卸売業	52 社	サービス業	106 社

概況

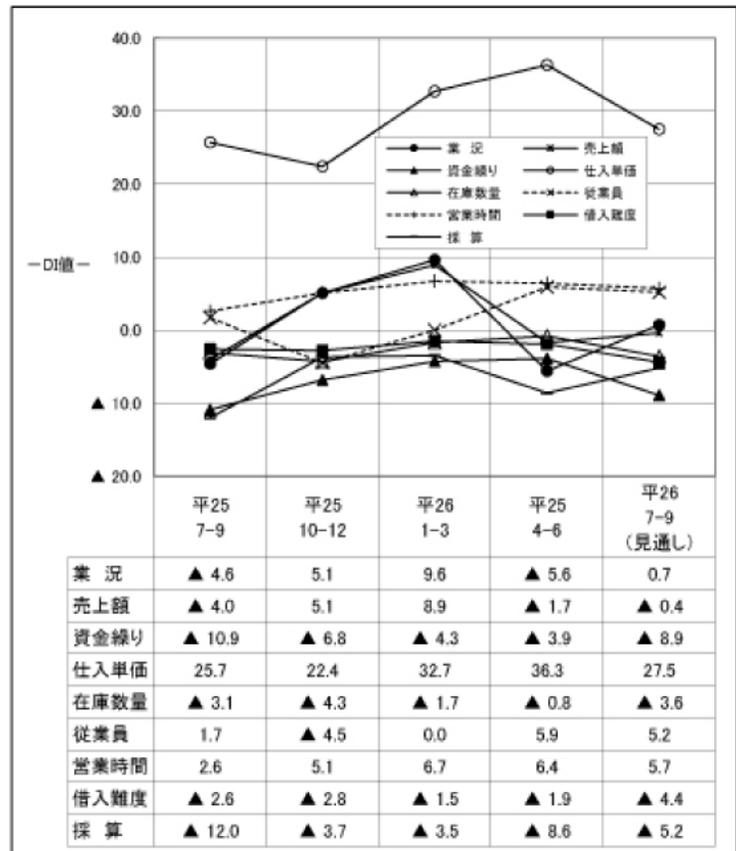
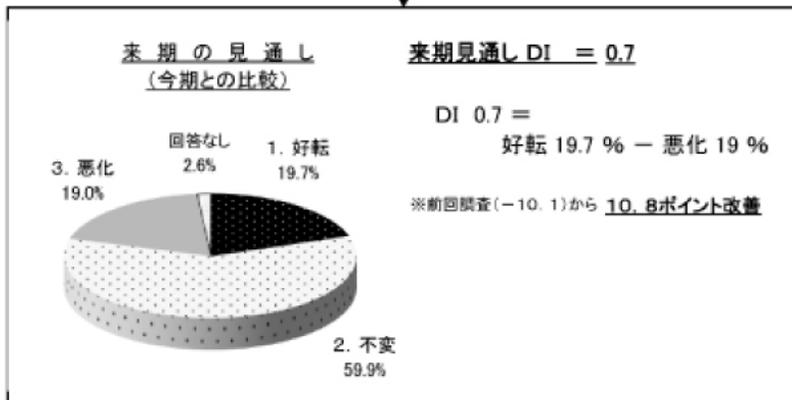
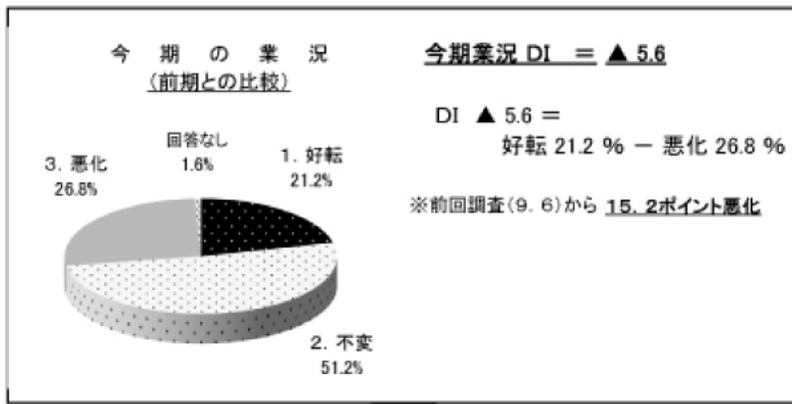
<DI(Diffusion Index)とは…> DI (%) = 「良い」「増加」等企業割合 - 「悪い」「減少」等企業割合
 DIとは、各設問の項目について、「増加」「好転」したとする企業の割合から、「減少」「悪化」したとする企業の割合を差し引いた値です。したがってDIがプラスを示している場合は、全体として「増加」「好転」する企業が多く、景気(またはそれぞれの要素)が上向きの傾向にあることを示します。逆にマイナスを示している場合は、景気が低迷の傾向にあることを示します。

業況

今期(平成26年4月-6月期実績)の業況DIは、▲5.6ポイントで、前期から15.2ポイント悪化した。平成25年7月-9月期以来、3期ぶりにマイナスに転じた。来期の業況見通しDIは、0.7ポイントと、前期から10.8ポイント改善した。

主な指標別の傾向

今期は、売上額▲1.7(前期比▲10.6)、採算▲8.6(同▲5.1)など5指標が悪化した。来期見通しは、売上額▲0.4(当期比+1.3)の改善が見込まれるが、借入難度▲4.4(同▲2.5)と営業時間6.4(同▲0.7)は引き続き悪化が見込まれている。



■主要景況指数表

(注)調査項目: 業況(好転⇔悪化)、売上額(増加⇔減少)、資金繰り(好転⇔悪化)、仕入単価(上昇⇔低下)、在庫数量(増加⇔減少)、従業員(増加⇔減少)、営業時間(延長⇔短縮)、借入難度(容易⇔困難)、採算(好転⇔悪化)

今期の状況(前期比)

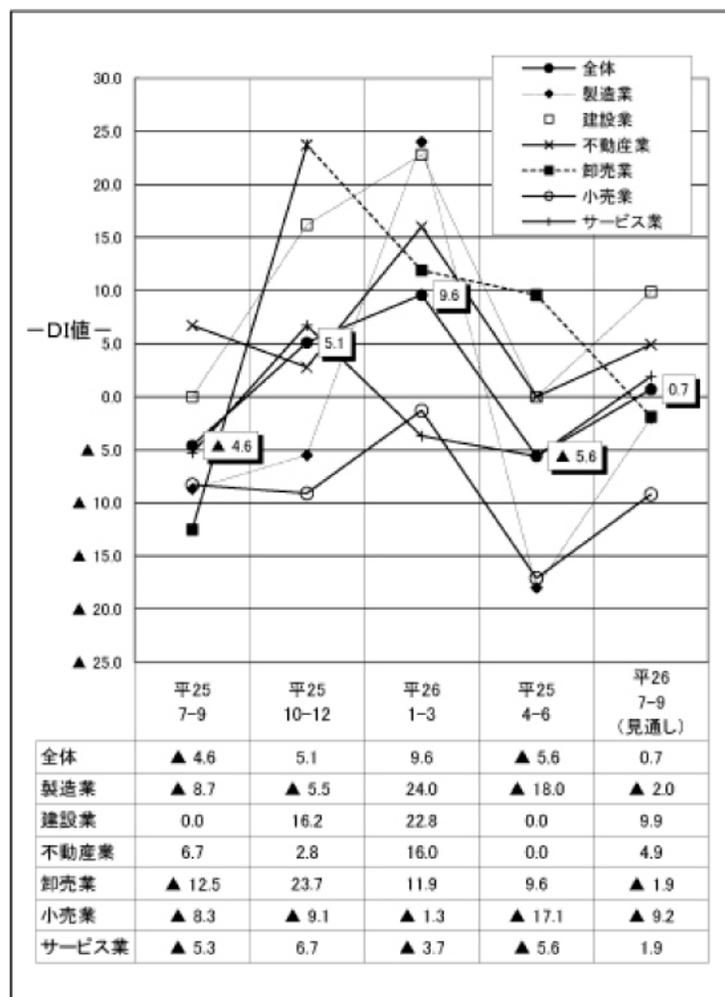
	業況	前年同期比	売上額	前年同期比	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	▲5.6	0.0	▲1.7	4.7	▲3.9	36.3	▲0.8	5.9	6.4	▲1.9	▲8.6
製造業	▲18.0	▲10.0	▲16.0	▲6.0	▲6.0	42.0	▲6.0	2.0	▲4.0	0.0	▲10.0
建設業	0.0	21.0	8.6	32.1	0.0	46.9	0.0	9.9	9.9	4.9	▲13.6
不動産業	0.0	2.4	▲2.4	▲2.4	2.4	19.5	2.5	4.9	9.8	▲7.4	▲2.5
卸売業	9.6	9.6	7.7	7.7	0.0	40.4	5.8	3.9	3.8	5.7	▲7.7
小売業	▲17.1	▲18.4	▲11.9	▲13.1	▲11.8	39.5	▲4.0	2.6	2.6	▲5.2	▲9.2
サービス業	▲5.6	▲3.8	0.0	2.8	▲4.7	27.4	▲0.9	8.5	11.3	▲7.6	▲6.6

来期の見通し(当期比)

	業況	売上額	資金繰り	仕入単価	在庫数量	従業員	営業時間	借入難度	採算
全体	0.7	▲0.4	▲8.9	27.5	▲3.6	5.2	5.7	▲4.4	▲5.2
製造業	▲2.0	▲4.0	▲12.0	26.0	▲2.0	4.0	8.0	▲2.0	▲4.0
建設業	9.9	11.1	▲3.7	37.1	▲6.2	4.9	13.5	0.0	▲5.0
不動産業	4.9	9.8	▲7.3	14.7	2.5	4.9	9.8	▲9.8	0.0
卸売業	▲1.9	▲1.9	▲11.6	34.6	1.9	9.6	0.0	5.8	▲2.0
小売業	▲9.2	▲18.5	▲13.1	28.9	▲11.9	2.6	0.0	▲10.6	▲11.8
サービス業	1.9	1.8	▲7.6	21.7	▲1.8	5.6	3.8	▲7.5	▲4.7

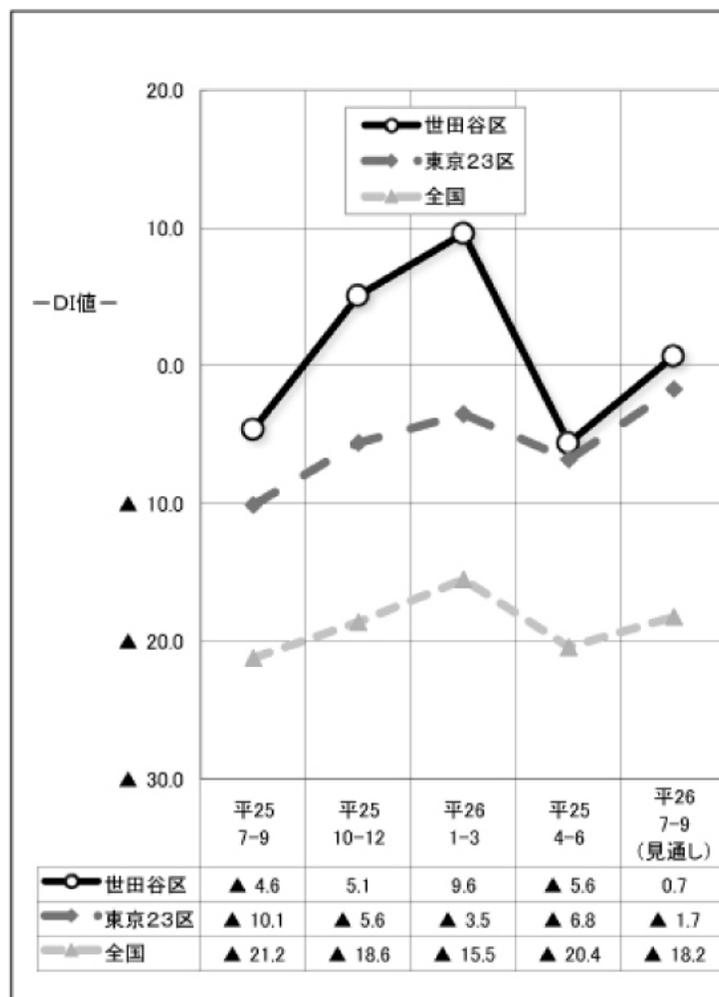
業種別の動向

今期の業種別DIは、「製造業」(▲18.0ポイント、前期比▲32.0)を始めとし、全業種が悪化した。来期は、「卸売業」(▲1.9ポイント、当期比▲11.5)を除く全業種が改善する見通し。



東京都・全国との比較

「世田谷区」では、今期は▲5.6ポイント(前期比▲15.2)で3期ぶりにマイナスに転じた。また、「東京23区」は▲6.8ポイント(同▲3.3)で、7期ぶりに悪化した。来期は、「世田谷区」、「東京23区」、「全国」ともに改善する見通し。



※データ参照(データ:業況判断DI前期比)
 東京23区=「東商けいきょう:業況判断DI」(東京商工会議所)
 全国=「中小企業景況調査 業況判断DI(前期比季節調整値)」(独立行政法人中小企業基盤整備機構)

経営上の問題点

1位「仕入単価、下請単価の上昇」29.8%(前期比+1.4ポイント)は5期連続1位となった。2位「人件費以外の経費の増加」23.9%(同▲0.2ポイント)で前期と同一順位であった。3位「新規参入者の進出や同業者の増加」21.7%(同+2.3ポイント)と「従業員の確保難」20.4%(同+2.1)は、それぞれ前回順位5位、8位から上昇した。最も回答率が下がったのは、9位「販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難」14.5%(同▲6.4ポイント)で、順位は3位から下降した。

順位	項目	回答数	回答率	前回順位
1	仕入単価、下請単価の上昇	121	29.8%	- 1
2	人件費以外の経費の増加	97	23.9%	- 2
3	新規参入者の進出や同業者の増加	88	21.7%	↑ 5
4	従業員の確保難	83	20.4%	↑ 8
5	需要の停滞	78	19.2%	↓ 4
6	購買ニーズの変化への対応	77	19.0%	↑ 9
7	人件費の増加	76	18.7%	↓ 6
8	大企業(大型店)進出による競争激化	71	17.5%	↓ 6
9	販売単価、製品単価、請負単価の低下・上昇難	59	14.5%	↓ 3
10	取引条件の悪化	34	8.4%	↑ 11
11	生産設備の不足・老朽化	32	7.9%	↓ 10
12	店舗・倉庫の狭隘・老朽化	29	7.1%	↓ 11
13	事業資金の借入難	26	6.4%	↑ 14
14	購買力の他地域への流出	23	5.7%	↓ 13
15	金利負担の増加	13	3.2%	↑ 19
15	代金回収の悪化	13	3.2%	↑ 17
15	その他	13	3.2%	- 15
18	在庫の過剰	10	2.5%	↓ 16
19	在庫の不足	6	1.5%	↓ 17
20	生産設備の過剰	2	0.5%	- 20

※複数回答(3つまで選択)のため、回答率の合計は100%を超える。